

常磐地区市街地再生整備基本方針

令和3年5月

いわき市

目次

1. 常磐地区市街地再生整備基本方針について	1
1-1. 基本方針策定の背景と目的.....	1
1-2. 基本方針の対象区域	2
1-3. 基本方針の位置づけ	3
1-4. これまでの経緯.....	4
2. 常磐地区の現状とまちづくりの課題について.....	5
2-1. 人口	5
2-2. 産業	6
2-3. 土地利用.....	7
2-4. 道路・交通	8
2-5. 地域資源.....	9
2-6. 公共施設.....	10
3. 基本方針について	11
3-1. 市街地再生の目標	11
3-2. 基本方針の体系.....	12
3-3. 基本方針図	13
3-4. 市街地再生の方針と今後検討する主な取り組み.....	14
方針1 多世代が集う交流拠点の整備	14
方針2 温泉とフラのまちの玄関口としての景観整備.....	15
方針3 商店街のにぎわい再生	16
方針4 温泉街の滞留拠点の形成.....	17
方針5 歩きたくなる沿道景観・道路空間の整備	18

1. 常磐地区市街地再生整備基本方針について

1-1. 基本方針策定の背景と目的

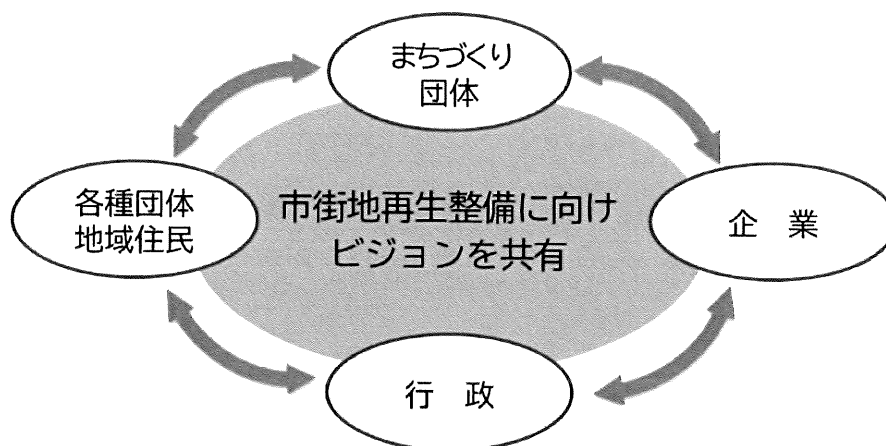
今後の急速な人口減少や超高齢社会において、まちの活力の維持・増進や持続可能な都市運営を実現するためには、市街地の低未利用地や公共用地を有効活用しながら、都市の生活を支える機能（行政、医療、教育、福祉、商業等）を誘導していくことが必要となります。

そのため、本市では令和元年10月に「いわき市立地適正化計画」を策定し、本計画における都市機能誘導区域を対象に公共施設再編と連携しながら、基盤整備の導入やソフト施策の実施などによる市街地再生を進めることとしています。

常磐地区は、日本三古泉の一つである「いわき湯本温泉」や「スパリゾートハワイアンズ」、「いわきFCパーク」などの観光資源が豊富な地区ですが、東日本大震災以降、既成市街地である湯本駅周辺は、空き地や駐車場といった低未利用地が増加し、また観光客の減少の影響等から、商店街においても空き店舗等が目立ち、市街地の空洞化が進行するなど、地区の魅力や活力が低下している状況にあります。

さらに、駅前に立地する市営住宅天王崎団地については、解体工事が進んでおり、空き地がさらに増加することから、跡地活用の検討が急務となっています。

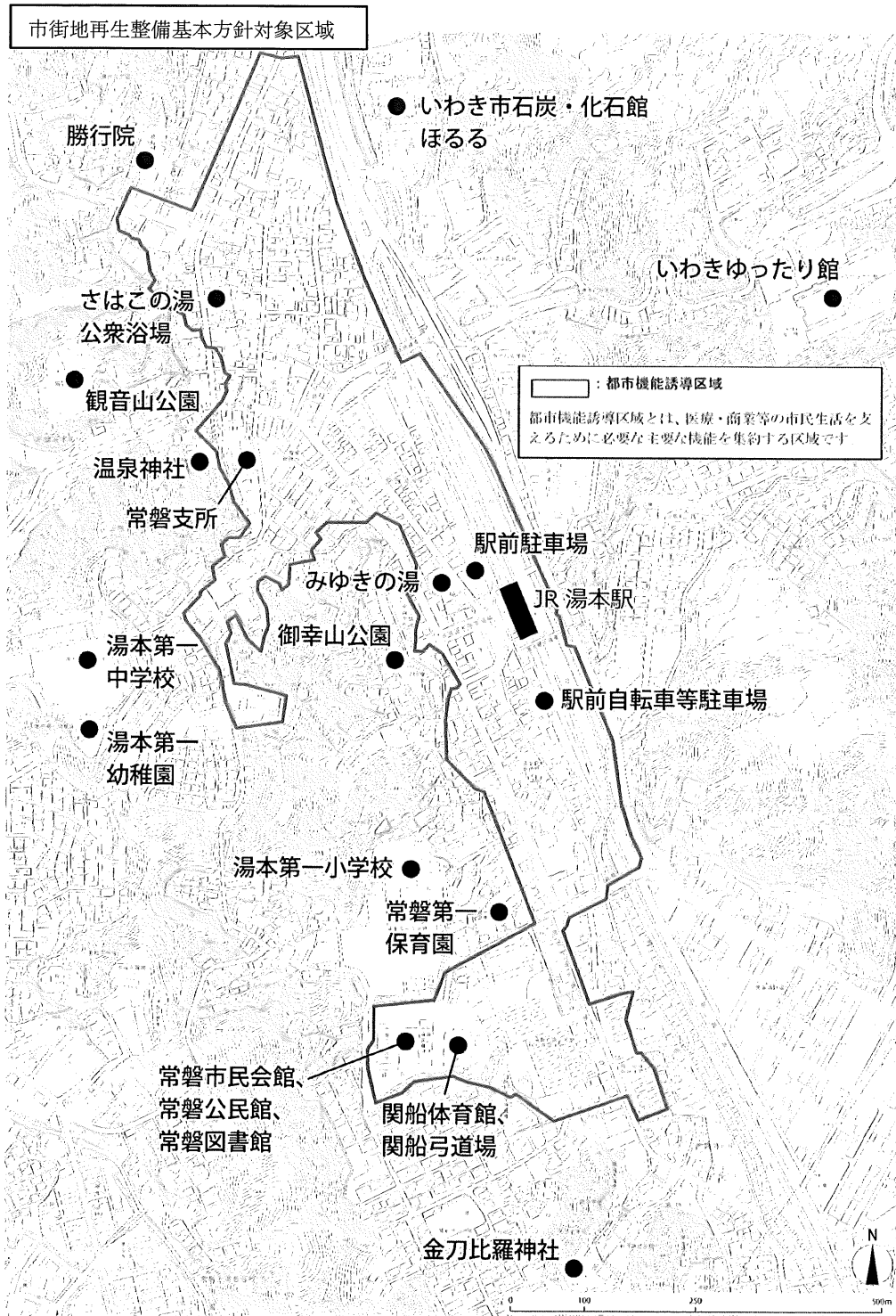
本基本方針は、本市の観光拠点である常磐地区の市街地再生を図るにあたり、地区団体と行政で組織する「常磐地区まちづくり検討会」や住民アンケート等の意見を踏まえ、今後目指すべき市街地再生の目標や方針に関する基本的な考え方を取りまとめたものです。



公民連携によるまちづくりイメージ図

1-2. 基本方針の対象区域

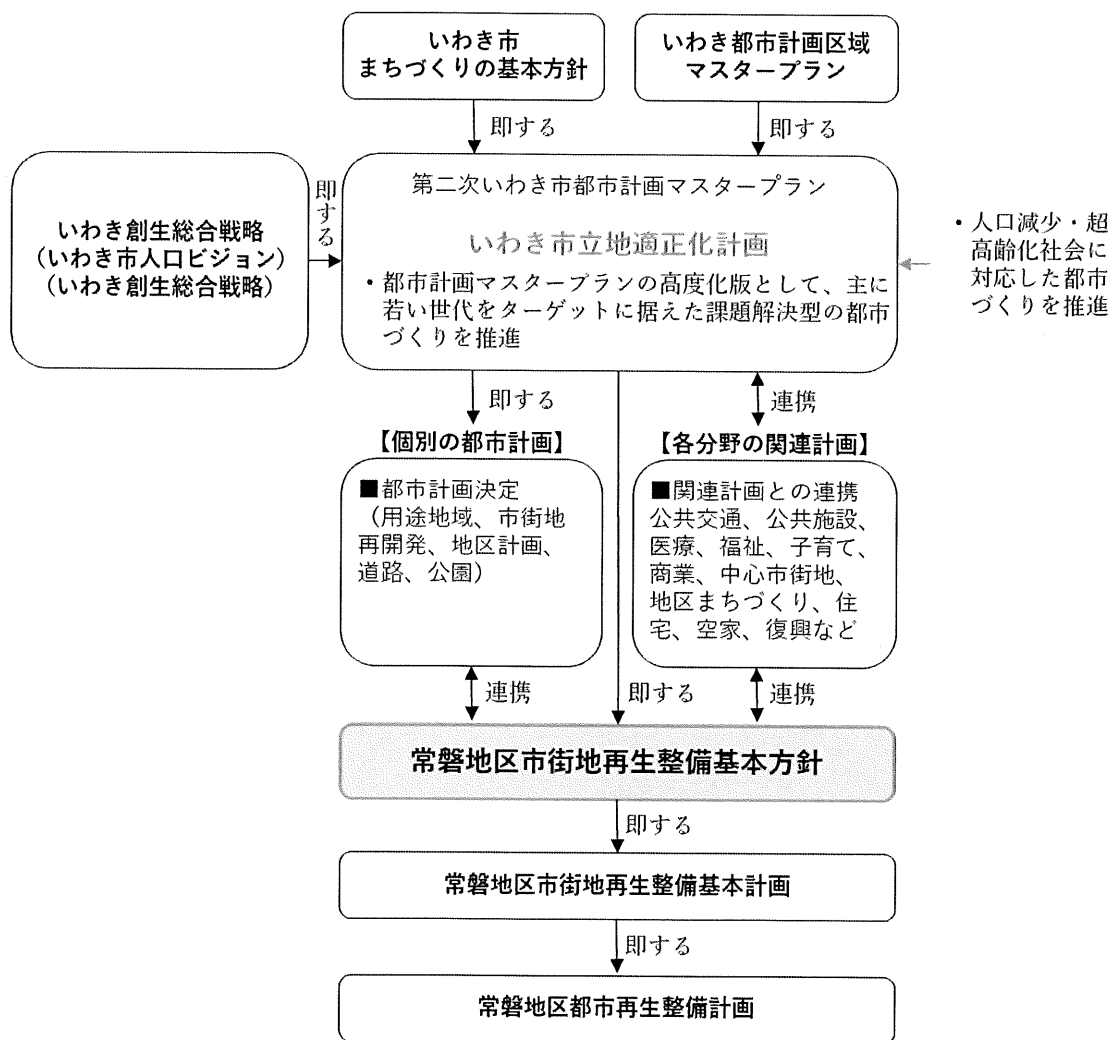
本基本方針の対象区域は、いわき市立地適正化計画における常磐地区都市機能誘導区域を基本として、設定しています。



市街地再生整備基本方針対象区域図

1-3. 基本方針の位置づけ

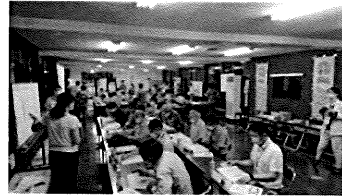
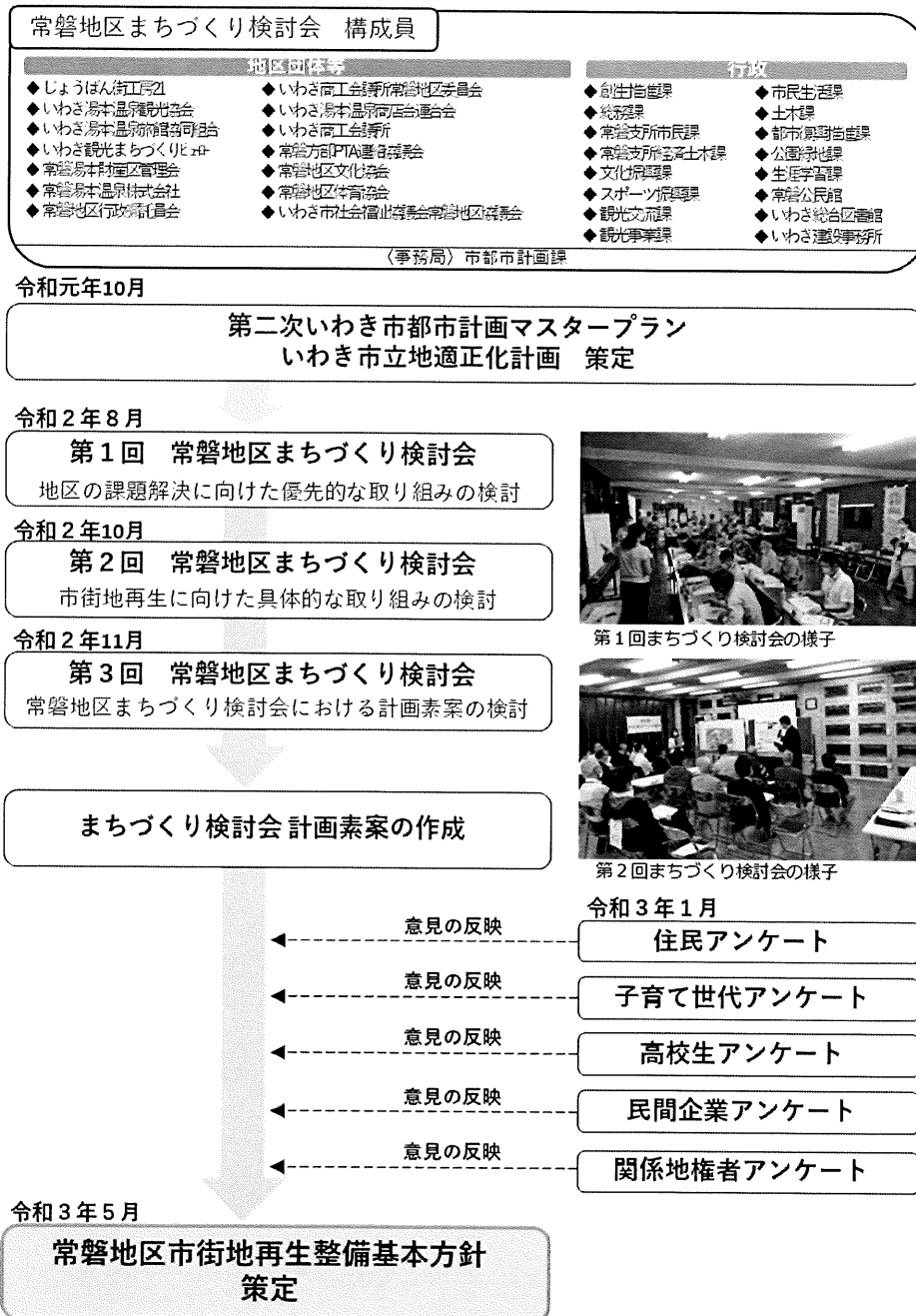
本基本方針は、常磐地区都市機能誘導区域における市街地再生整備の方針を示し、具体的な事業計画（都市計画、都市再生整備計画等）を策定するための指針として活用します。



常磐地区市街地再生整備基本方針の位置づけ

1-4. これまでの経緯

本基本方針は、地区団体や行政で組織する「常磐地区まちづくり検討会」における検討や住民アンケートを実施するなど、地域のみなさんの意見を反映した計画としています。



第1回まちづくり検討会の様子



第2回まちづくり検討会の様子

常磐地区市街地再生整備基本方針策定の経緯

2. 常磐地区の現状とまちづくりの課題について

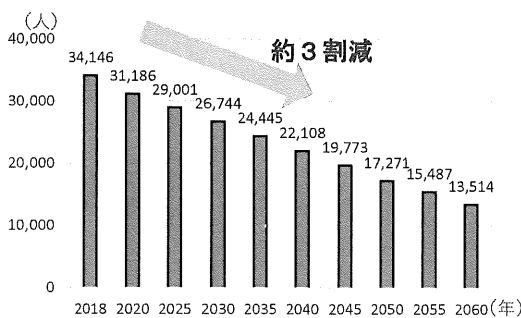
常磐地区の現状とまちづくりの課題について、6つの観点から整理します。

2-1. 人口

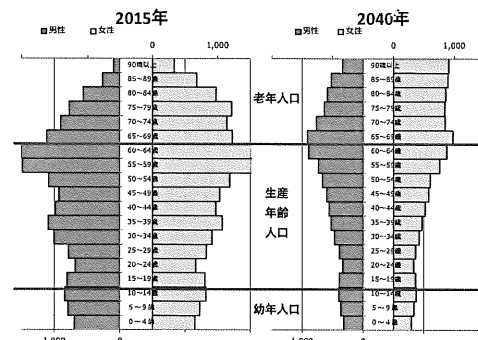
(1) 現状

既成市街地である湯本駅周辺は、人口減少が著しく、地区全体の活力の低下が進行しています。また、20年後の2040年には現在よりも約3割の人口減少が見込まれるとともに、生産年齢人口割合の大幅な減少も予測されています。

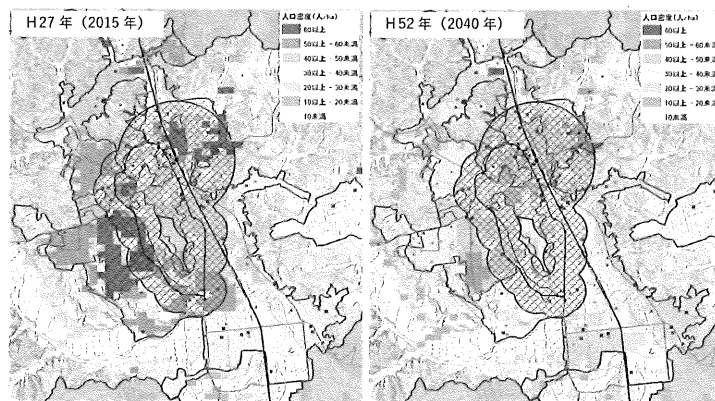
そのほか、将来的には、人口密度の低下により、一定の人口密度で支えられてきた日常サービスの施設（医療、スーパーなど）の撤退（必要な都市機能の低下）が懸念されます。



常磐地区の推計人口※1



常磐地区の人口ピラミッド※2



常磐地区の人口密度・分布(H27・H52 比較)※3

(2) 課題

将来的にも持続可能なまちとするためには、湯本駅周辺の市街地に、公共施設や日常生活に必要な施設を誘導し、市街地の定住を促進させるなど、コンパクトなまちづくりを進めることが求められています。また、地域コミュニティの維持を図るとともに、まちづくりの担い手となる人材の育成や確保に向けた環境を整備することが求められます。

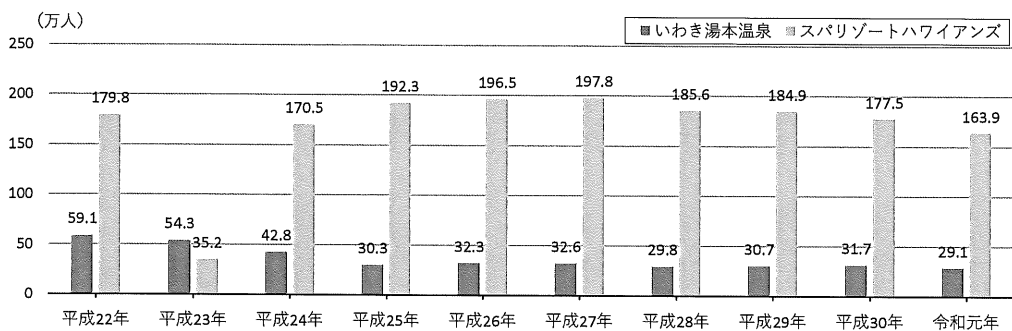
2-2. 産業

(1) 現状

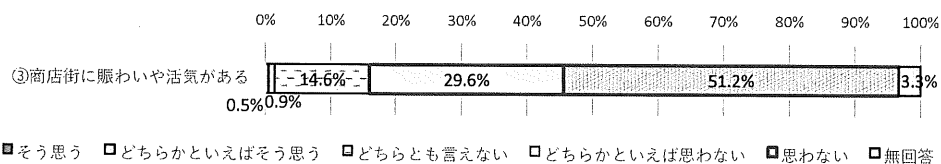
常磐地区は、「いわき湯本温泉」や「スパリゾートハワイアンズ」、「いわきFCパーク」を有し、観光と商業が地区の基幹産業となっています。

「スパリゾートハワイアンズ」の観光入込客数は震災前の水準まで回復しましたが、いわき湯本温泉の観光入込客数は震災前の状況に至っておらず、さらに、今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当該地区の旅館・ホテル等への宿泊客が減少するなど、温泉観光地として、これまで以上に厳しい状況にあります。

また、湯本駅周辺の商店街は空き地や空き店舗が増加しており、住民アンケートでは、「商店街に賑わいや活気が感じられない」という意見が多く見受けられます。



常磐地区の主な施設の観光入込客数の推移※4



住民アンケート「湯本駅周辺の印象について」の結果※5



一番町商店街の様子



駅周辺の空き地・空き家

(2) 課題

本市の観光拠点である、「いわき湯本温泉」の魅力向上や「スパリゾートハワイアンズ」など周辺観光施設との連携強化が求められます。また、中心部においては、空き地や空き店舗の有効活用を図りながら、商店街の賑わい再生や魅力向上に向けた取り組みが必要です。

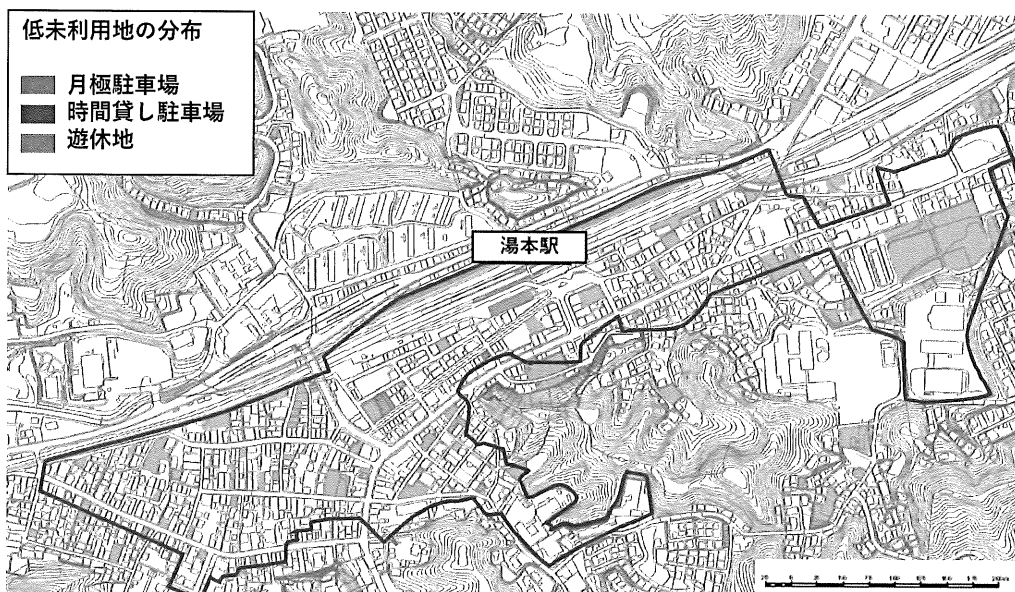
2-3. 土地利用

(1) 現状

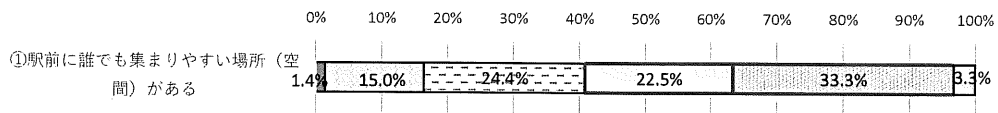
湯本駅周辺では、東日本大震災による損壊家屋の解体に伴い、空き地や駐車場などの低未利用地が増加しており、また、観光客の減少の影響から、商店街においても空き店舗が目立ち、さらに、市営住宅天王崎団地が解体されるなど市街地の空洞化が進行しています。

一方で、震災後の住宅需要の高まりにあわせ、商業地の空き地への一般住宅の建築等も見受けられます。

住民アンケートでは、「駅前に誰でも集まりやすい場所が十分でない」という意見が多く、駅前の空間や土地が有効活用されていない状況が伺えます。



湯本駅周辺の低未利用地の分布※6



そう思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらとも言えない
 どちらかといえば思わない
 思わない
 無回答

住民アンケート「湯本駅周辺の印象について」の結果※5

(2) 課題

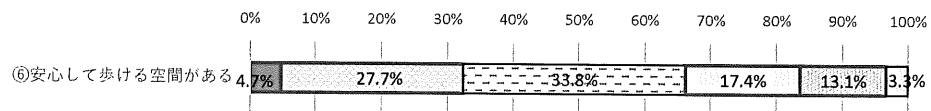
低未利用地や空き店舗を有効活用しながら、居心地が良く、滞留や交流できる空間を整備するなど、まちなかの都市機能の維持・向上に向けた取り組みを進めていくことが求められています。

2-4. 道路・交通

(1) 現状

駅周辺の幹線道路については、歩行空間が一定程度整備されているものの、電柱が歩道上に設置されているため、有効幅員が狭く、また、上空には電線類が設置され、観光地としての景観を阻害している状況にあります。三函地区などについては、狭あいな道路や不整形な交差点などの危険な箇所が見られます。

住民アンケートからも、安心して歩ける空間がある印象について、「十分である」という意見と「十分でない」という意見は同程度あり、改善の余地がある道路があると、住民が感じていることが分かります。



そう思う どちらかといえばそう思う どちらとも言えない どちらかといえば思わない 思わない 無回答

住民アンケート「湯本駅周辺の印象について」の結果※5



歩行空間が狭あいな道路

(2) 課題

誰もが歩きたくなる安全な道路環境を形成することが求められています。

また、まちづくりと連携しながら、必要となる交通機能やネットワークの強化が求められています。

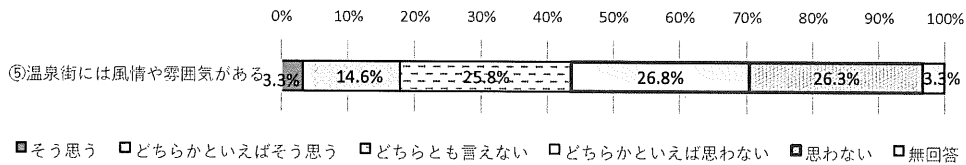
2-5. 地域資源

(1) 現状

湯本駅周辺には、「ほるる」や「さはこの湯」、「温泉神社」、「童謡館」など、歴史・文化的観光資源が立地しているものの、観光客への周知や相互連携、回遊性が不足しています。

また、「いわき湯本温泉」は、豊富な湯量を有する日本三古泉として地区の観光拠点となっており、平成27年8月に「フラのまち宣言」し、「和」と「フラ」の文化の融合をコンセプトとして、「フラ女将」の活動などを通し、地域活性化に向けた取り組みが進められています。一方で、住民アンケートでは、「温泉街としての風情や雰囲気を感じられない」という意見が多く、温泉資源を十分に活用できていない状況が見受けられます。

そのほか、駅前には、桜の名所であり高台から街並みを一望できる御幸山公園や、市民団体によりイベントが開催されている駅前緑地などの緑地資源がありますが、御幸山公園の斜面地などは、樹木が生い茂り、見通しが悪化していることから、適正な維持管理が求められています。



住民アンケート「湯本駅周辺の印象について」の結果※5



御幸山公園と駅前緑地



いわき湯本温泉街の様子

(2) 課題

駅周辺地区の交流拠点機能の強化、観光施設や歴史的資源を活用したまちなかの回遊性向上による賑わいづくりや、まちなかで「温泉」と「フラ」を感じられるいわき湯本“ならでは”“らしさ”の雰囲気づくりが求められています。

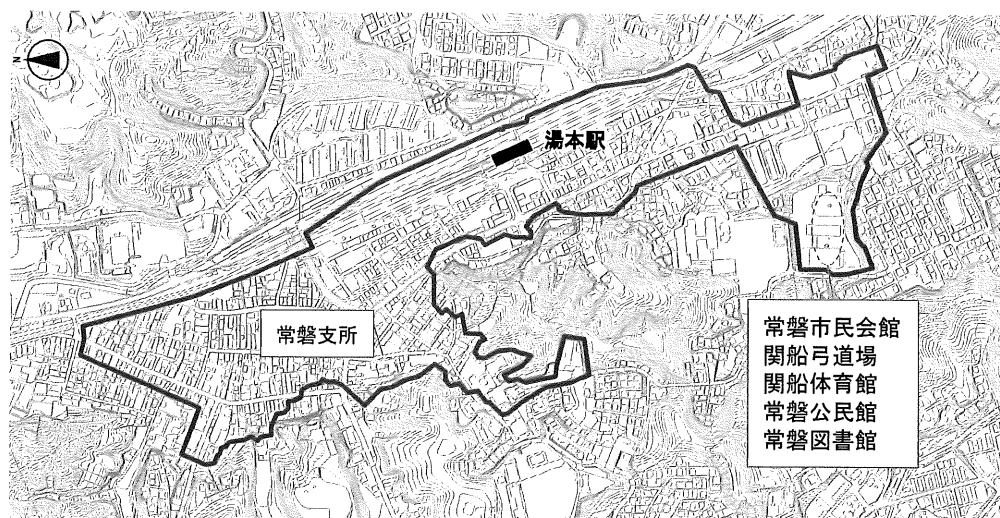
地域資源の活用や連携により、魅力を高め、回遊性のある賑わいづくりをすることが求められています。

2-6. 公共施設

(1) 現状

湯本駅周辺の公共施設の多くが耐用年数を超過しており、今後は大規模な改修が必要となることで、維持管理費用等の増加が予想されます。

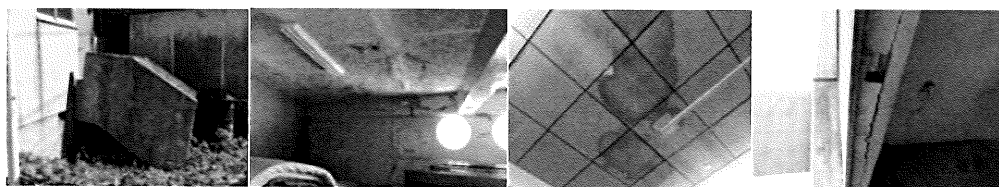
市では、平成 28 年度に公共施設等総合管理計画を策定し、今後の人口動向を踏まえながら、公共施設等の総量適正化などについて取り組むこととしています。



公共施設の位置図

湯本駅周辺に立地する主な公共施設の状況

公共施設名	建築年度	経過年数	備考
常磐支所	1959 年	62 年	将来的な公共施設の在り方については、「公共施設等総合管理計画」において定めることとなっており、現在、施設毎に集約・複合化や長寿命化などの方針について検討を進めています。
常磐市民会館	1966 年	55 年	
関船弓道場	1978 年	43 年	
関船体育館	1976 年	45 年	
常磐公民館 常磐図書館	1966 年	55 年	



老朽化や劣化の著しい公共施設(左2枚:関船体育館、右2枚:常磐公民館)

(2) 課題

将来的な少子高齢化の進行や財政状況を踏まえ、公共施設の集約・複合化による公共施設等の総量適正化や民間活力の活用などが必要です。

また、集約・複合化後の公共施設の跡地活用においては、地区に望ましい都市機能(商業、医療等)を誘導するため、民間活力の導入を検討することが必要です。

3. 基本方針について

3-1. 市街地再生の目標

常磐地区が置かれている現状や課題、まちづくり検討会における市街地再生に向けた検討、住民アンケート等により寄せられた意見などを踏まえ、市街地再生に向けた目標を次のように設定します。

【市街地再生の目標】

駅周辺の再編と交流空間の創出による市街地の再生 ～「温泉」と「フラ」を活かしたにぎわい・交流の源泉づくり～

常磐地区は、「いわき湯本温泉」をはじめ、「温泉神社」、「スパリゾートハワイアンズ」や「いわきFCパーク」、「21世紀の森公園」などの歴史・文化・観光資源を有するなど、豊富な地域資源を有する地区です。

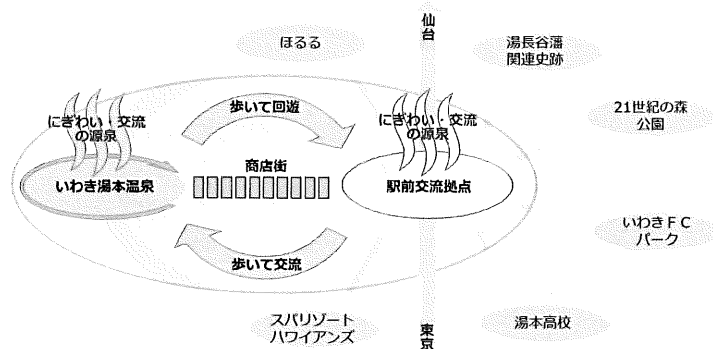
また、「フラのまち宣言」や「フラ女将」など、地域に「フラ」の文化が浸透する特色のあるまちでもあります。

これらの豊富な資源を活かしながら、いわき湯本温泉の豊富な源泉のように、地域住民や観光客など多くの人々が行き交う、にぎわいのある交流空間の創出に向けた、基盤整備などのハード事業のほか、にぎわいと交流に寄与するソフト事業の展開により、市街地の再生を目指します。

「温泉」は、日本三古泉として歴史のある温泉街として「和」を基調とした街並みや情緒ある雰囲気づくりなど、観光客や地域住民が歩きながら楽しめる空間づくりを進め、まちなかの回遊性の創出を目指します。

「フラ」は、「交流」「健康（適度な運動）」「協働」「自然への感謝」などの「フラ」が連想させる多様なイメージを活かしたソフト事業を実施し、交流やにぎわいづくりを通じて、人と人の社会的なつながりを醸成することを目指します。

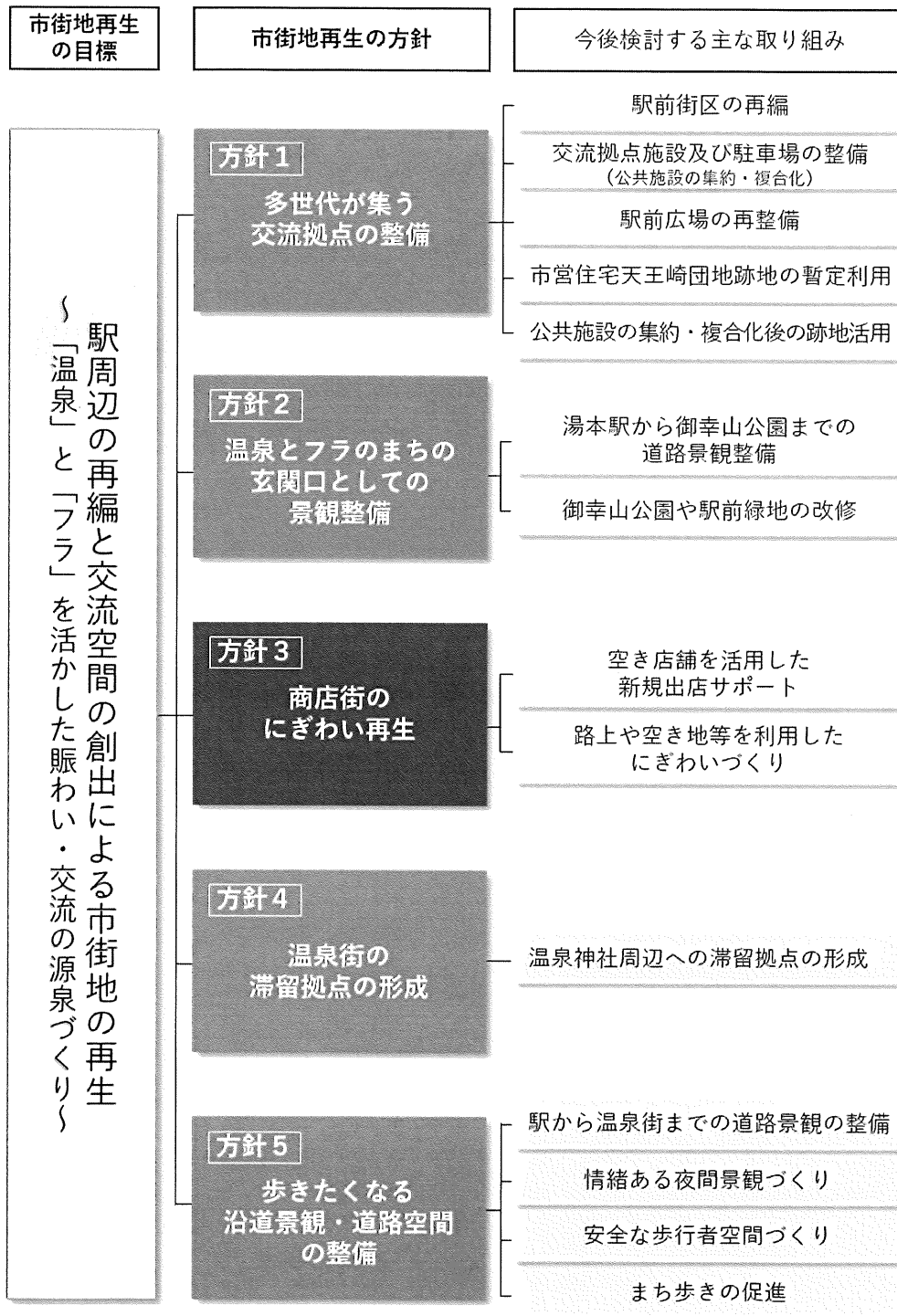
また、将来的にも“持続的なまち”として、主に市内外の若い世代に“選ばれるまち”となるよう、様々な事業展開を図りながら、幅広い世代が「訪れたい」「暮らしたい」と思えるような、市街地の再生を目指します。



市街地再生のコンセプト図

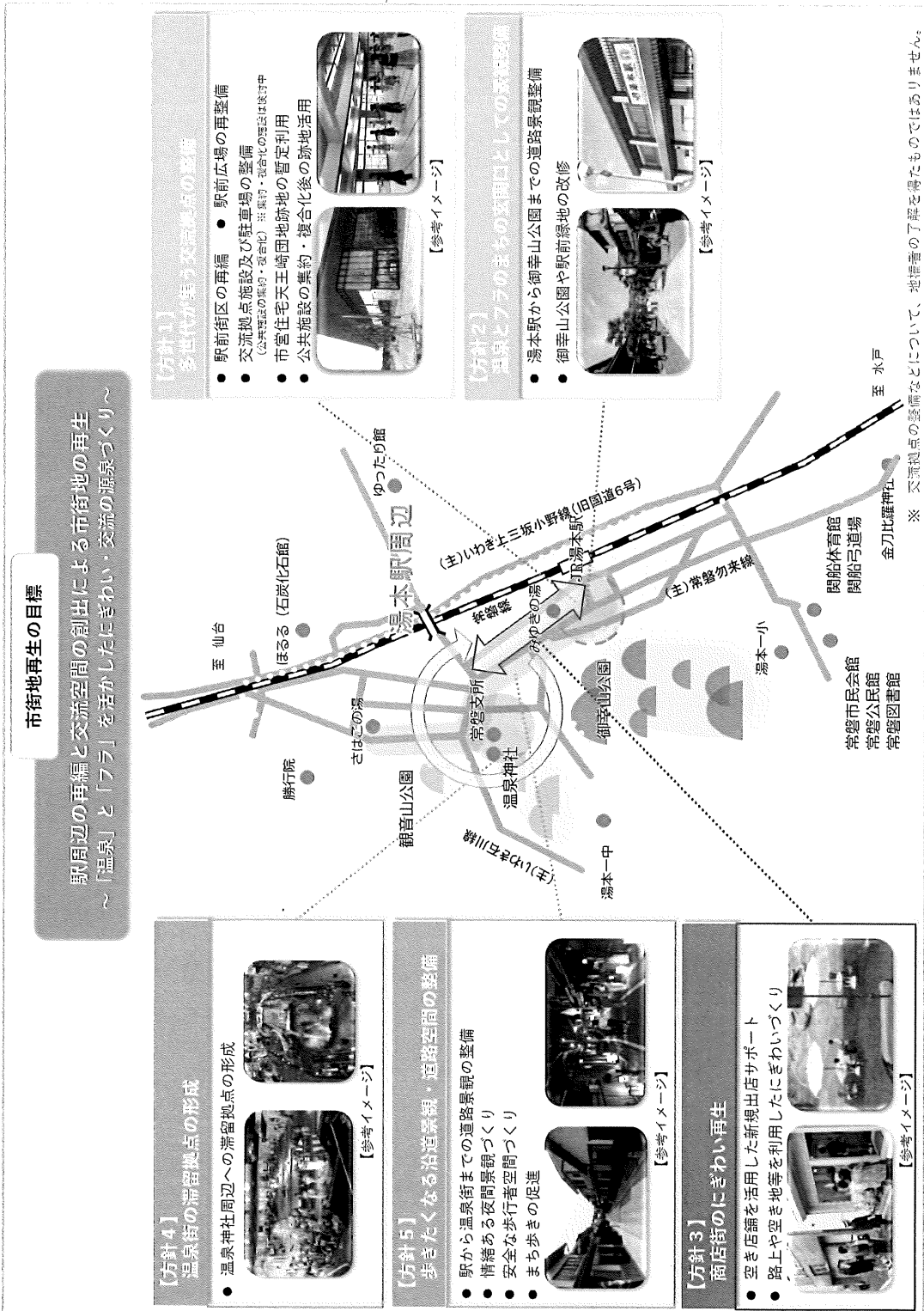
3-2. 基本方針の体系

市街地再生に向けた体系は、次のとおりです。



基本方針の体系図

3-3. 基本方針図

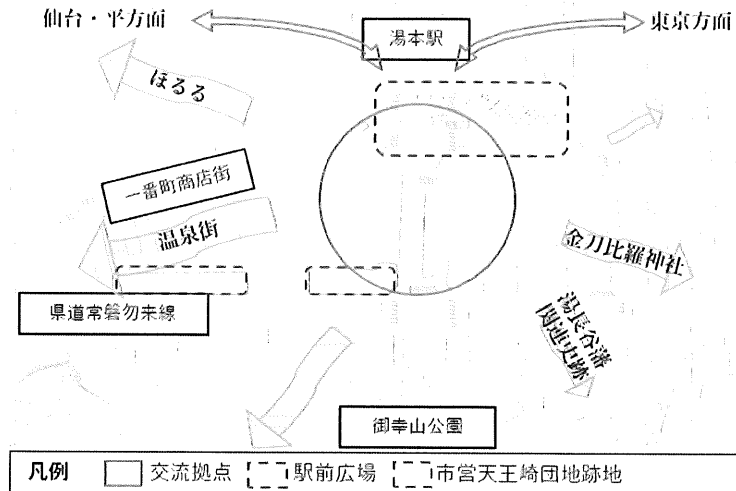


基本方針図

3-4. 市街地再生の方針と今後検討する主な取り組み

方針1 多世代が集う交流拠点の整備

湯本駅前は、鉄道やバスの利用客をはじめ、観光客等、地区内外の人々が行き交う本市の観光拠点の玄関口として、情報発信と交流機能を有する拠点を創出して、多様な人々が集い、憩い、賑わいのある空間の形成を目指します。



地区内外の人と情報の交流拠点の形成イメージ図

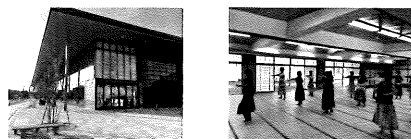
今後検討する主な取り組み

- **駅前街区の再編**
 - ・ 市営住宅天王崎団地跡地やその周辺の未利用地なども含めながら、小規模土地地区画整理事業等による都市基盤の形成について検討します。
- **交流拠点施設及び駐車場の整備（公共施設の集約・複合化）**
 - ・ 本市の観光拠点の玄関口に相応しい、地区の魅力や活力の向上に向けて、行政や子育て、文化機能のほか、商業、業務機能など、地域住民の生活を支え、まちの魅力や賑わいの核となる拠点施設や駐車場の整備を検討します。
 - ・ 拠点施設や駐車場の整備にあたっては、将来を見据え、施設の適正規模化を図るとともに、事業実施にあたっては、民間活力の活用について検討します。
- **駅前広場の再整備**
 - ・ 交流拠点整備に伴う交通量増加への対応や、交通結節点としての更なる機能強化を図るため、駅前広場の再整備を検討します。
- **市営住宅天王崎団地跡地の暫定利用**
 - ・ 市街地再生整備事業着手までの暫定利用として、地域のまちづくり団体と連携しながら、賑わいや滞留空間づくりを行います。
- **公共施設の集約・複合化後の跡地活用**
 - ・ 集約・複合化する公共施設の跡地活用については、地域の賑わい創出や利便性向上に繋がる民間施設の誘導を検討します。

考慮すべき事項

- ・ 関係権利者との合意形成
- ・ 交流拠点の施設機能や適正規模の検討
- ・ 駐車場の規模及び配置の検討
- ・ 民間活力の導入検討

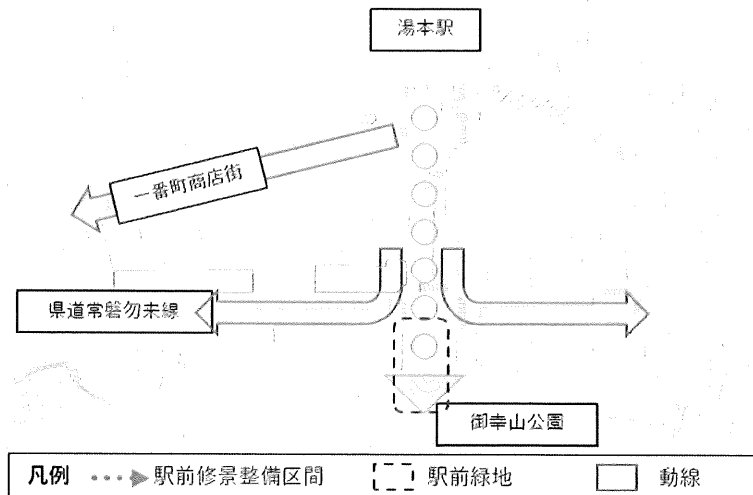
参考イメージ



交流拠点のイメージ

方針2 温泉とフラのまちの玄関口としての景観整備

来訪者を迎え入れる温泉街の玄関口として、地域文化としての「温泉」と「フラ」を活用した、また湯本に訪れたいと思えるような、“いわき湯本”ならではの景観の形成を目指します。



駅前景観整備による賑わい創出イメージ図

今後検討する主な取り組み

- **湯本駅から御幸山公園までの道路景観整備**
 - ・ 湯本駅前を降りて初めて目に入る景色である御幸山公園までを見通す道路景観について、来訪者の心をつかむような湯本の魅力を体現する景観整備を検討します。
- **御幸山公園や駅前緑地の改修**
 - ・ 地域住民や観光客が交流し憩うことができる屋外空間づくりを検討します。

考慮すべき事項

- ・ 景観デザインの検討

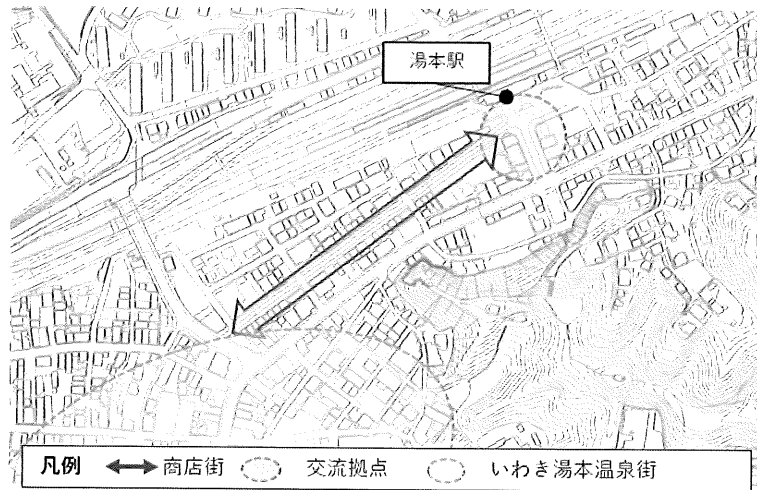
参考イメージ



温泉街の玄関口としての駅前景観整備※7

方針3 商店街のにぎわい再生

時代のニーズに合わせた個店づくりや居心地の良い空間づくりのサポートを行い、日常生活に対応した様々なサービス施設と、温泉観光に対応した商業施設を充実させることで、常磐地区や近隣に居住する人々や観光客が行き交う商店街の形成を目指します。



駅前と温泉街を繋ぐ商店街のにぎわい形成イメージ図

今後検討する主な取り組み

- **空き店舗を活用した新規出店サポート**
 - ・ 新たに店舗を開きたい事業者に対する、支援の仕組みづくりについて検討します。
- **路上や空き地等を利用したにぎわいづくり**
 - ・ 店舗の前の路上や暫定的な空き地を活用して、屋外空間で飲食を楽しむことや、定期的なマルシェ等の開催を検討します。

考慮すべき事項

- ・ 空き地や空き店舗の活用に対する所有者の協力
- ・ 持続可能な実施体制の構築
- ・ 若手事業者の起業・開業支援
- ・ 温泉街や駅前商店街との連携

参考イメージ



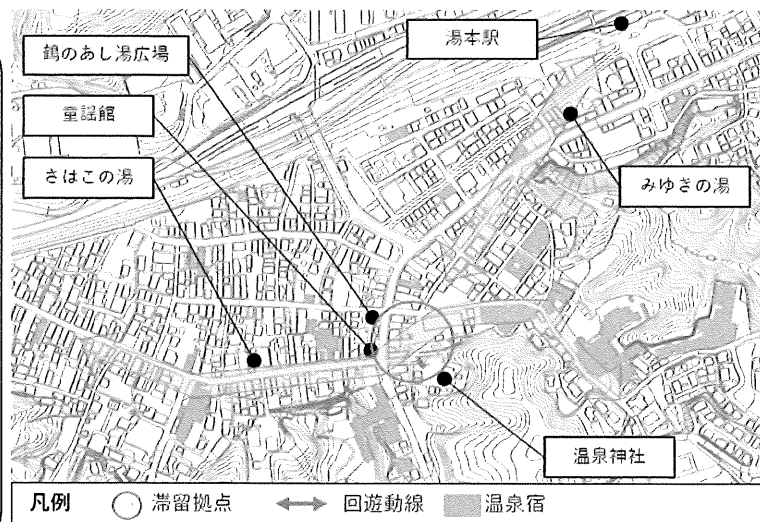
空き家ツアーの実施※8



空き地を活用した飲食スペースの設置

方針4 温泉街の滞留拠点の形成

地域最大の資源である「温泉」を活かし、温泉街で憩い、交流できる滞留拠点を創出することで、温泉宿と「温泉神社」や「さはこの湯」、「童謡館」などの既存の観光資源との間に人の流れをつくり、にぎわいや活力を生み出すことを目指します。



滞留拠点形成による温泉街の回遊性向上イメージ図

今後検討する主な取り組み

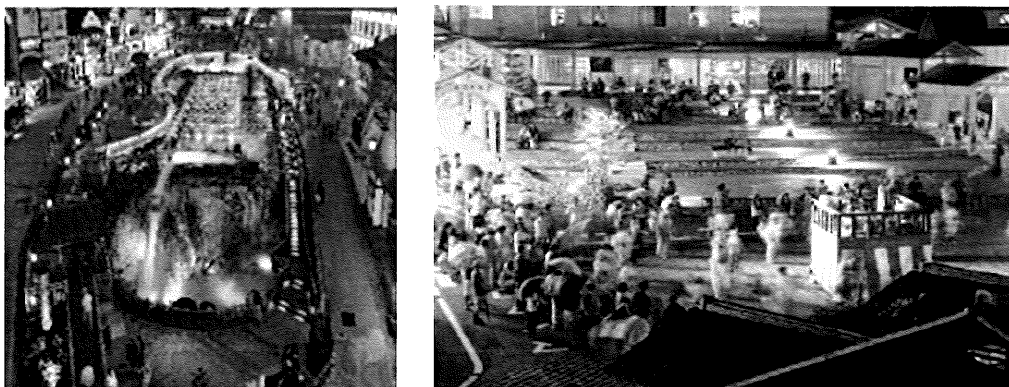
● 温泉神社周辺への滞留拠点の形成

- 温泉街を歩いて巡る観光客や地元住民が、フラッと立ち寄って休憩できる滞留空間の形成を検討します。滞留空間については、旅館やホテルが集積する三函・吹谷地区の中心となる温泉神社付近において検討し、温泉街の拠点とします。
- 滞留拠点およびその周辺は、いわき湯本温泉の豊富な湯量を活かして、温泉の湯気を漂わせながら、情緒ある雰囲気の醸成を目指します。

考慮すべき事項

- 拠点形成場所の検討
- 温泉資源の有効活用

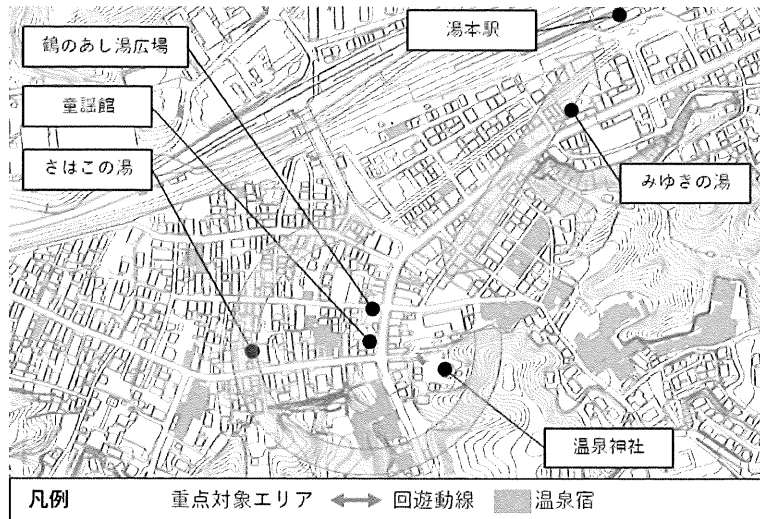
参考イメージ



滞留拠点のイメージ※7

方針5 歩きたくなる沿道景観・道路空間の整備

「温泉」や「炭鉱」などの常磐地区が育んできた歴史や文化を感じられる沿道景観づくりや、夜間も安心して歩くことができる明るく安全な道路空間づくりをすることで、住民にとって暮らしやすく、観光客にとって魅力的な温泉街を目指します。



景観整備による温泉街の回遊性向上イメージ図

今後検討する主な取り組み

- **駅から温泉街までの道路景観の整備**
 - ・ 駅から温泉街までの回遊性を向上するために、常磐地区が育んできた歴史や文化を感じられる道路景観の整備を検討します。
- **情緒ある夜間景観づくり**
 - ・ 温泉街としての情緒を醸成するため、夜間照明を設置するなど、夜も安全に楽しく散策できるまちを目指します。
- **安全な歩行者空間づくり**
 - ・ 幅が広く段差のない、誰もが安全に歩ける歩行者空間を目指します。
- **まち歩き促進**
 - ・ SNS等の媒体を活用した情報発信の強化により、駅周辺や温泉街への新たな来訪機会の創出を目指します。また、案内板などの設置による快適なまち歩き空間の整備を検討します。

考慮すべき事項

- ・ 道路景観のデザインの検討
- ・ まちなみのルールづくり
- ・ 景観や安全に配慮した電線地中化の導入検討

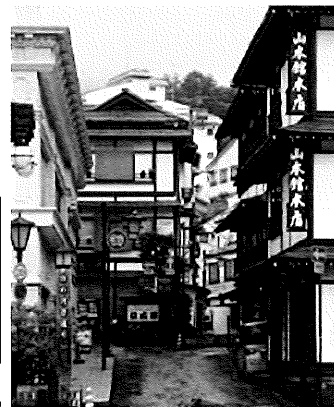
参考イメージ



電線の地中化※7



温かみのある色の照明※7



温泉情緒溢れる「和」の街なみ※7

出典

- ※1 いわき市,『いわき市の人口』,令和2年
いわき市,『いわき創生総合戦略・独自推計』,平成27年
- ※2 いわき市,『いわき創生総合戦略』,平成27年
- ※3 いわき市,『いわき市都市構造分析調査』,平成28年
- ※4 いわき市,『令和元年市内観光入込客数』,令和元年
- ※5 いわき市,『湯本駅周辺の今後のまちづくりに向けたアンケート調査』,令和2年
- ※6 福島県,『都市計画基礎調査』,平成29年
- ※7 国土交通省,『世界に誇れる日本の美しい景観・まちづくり～全国47都道府県の景観を活かしたまちづくりと効果～』,平成30年 (P15:左側写真)
- ※8 内閣府,『稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ100」』,平成29年



常磐地区市街地再生整備基本方針【概要版】

3 基本方針

市街地再生の目標

地区の現状や課題、まちづくり検討会における市街地再生に向けた検討、住民アンケート等の意見を踏まえ、市街地再生に向けたまちづくりの目標を次のように設定します。

駅周辺の再編と交流空間の創出による市街地の再生
～「温泉」と「フラ」を活かしたにぎわい・交流の源泉づくり～

常磐地区は、温泉資源のほか、「フラ」の文化が浸透している特色あるまちです。これらの豊富で特色ある資源を活用しながら、いわき湯本温泉の豊富な源泉のように、まちに多くの人々が行き交う、にぎわいのある交流空間の創出に向けた、基盤整備などのハード事業のほか、にぎわいと交流に寄与するソフト事業の展開により、市街地の再生を目指します。また、将来的にも“持続可能なまち”として、主に市内外の若い世代に「訪れたい」「暮らしたい」と思えるような、市街地の再生を目指します。

市街地再生の方針

目標を達成するため、新たな市街地再生に向けた方針を次のように設定します。

【方針1】
多世代が集う交流拠点の整備

【方針2】
温泉とフラのまちの玄関口としての景観整備

【方針3】
商店街のにぎわい再生

【方針4】
温泉街の滞留拠点の形成

【方針5】
歩きたくなる沿道景観・道路空間の整備

今後検討する主な取り組み
(関係各所との連携により検討)

駅前街区の再編 拠点施設・駐車場の整備
(公共施設の集約・複合化) ※ 検討中
駅前広場の再整備 市営住宅跡地の暫定利用

公共施設の集約・複合化後の跡地活用

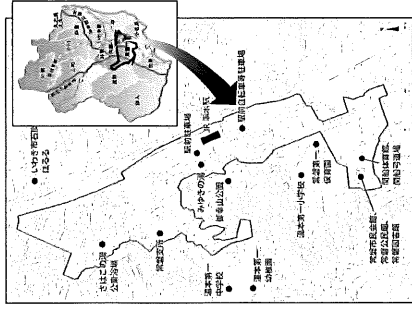
湯本駅から御幸山公園までの道路景観整備

御幸山公園や駅前緑地の改修

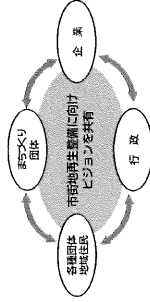
空き店舗を活用した新規出店サポート
路上や空き地等を利用したにぎわいづくり

温泉神社周辺への滞留拠点の形成

道路景観の整備 安全な歩行者空間づくり
夜間景観づくり まち歩き促進



市街地再生整備基本方針対象区域図



公民連携によるまちづくりイメージ図

1 基本方針策定の背景と目的

今後の急速な人口減少や超高齢社会において、まちの活力の維持・増進や持続可能な都市運営を実現するためには、行政や医療、商業など、都市の生活を支える機能を誘導していくことが必要となります。

そのため、本市では令和元年10月に「いわき市立地適正化計画」を策定し、本計画における都市機能誘導区域を対象に公共施設再編と連携しながら、基盤整備の導入やソフト施策の実施などによる市街地再生を進めることとしています。

本基本方針は、本市の観光拠点である常磐地区の市街地再生を図るにあたり、地区団体と行政で組織する「常磐地区まちづくり検討会」や住民アンケート等の意見を踏まえ、今後目指すべき市街地再生の目標や方針に関する基本的な考え方を取りまとめたものです。

2 常磐地区の現状と課題

常磐地区は、本市の中心市街地である平地区から南西約7kmに位置し、日本三古泉の一つである「いわき湯本温泉」を有する人口約3.5万人の地区です。また、地区内には、「スポーツトハワイアンズ」や「いわきFCパーク」といった市内有数の観光・スポーツ拠点なども立地しており、豊富な観光資源を有する地区となっています。

しかし、近年の人口減少に加え、東日本大震災以降は、観光入込客数の減少に伴い、空き地や空き店舗等が増加するなど、持続可能なまちとするため、多くの課題を抱えています。

現状	課題
<p>低未利用地の増加 (空き地や空き店舗の増加)</p>	<p>土地の有効活用による 交流空間の創出</p>
<p>観光・商業の低迷 (観光客減少や商店街魅力低下)</p>	<p>温泉街・商店街の 賑わい再生</p>
<p>多様な地域資源 (資源の活用・連携不足)</p>	<p>観光地としての 魅力向上</p>
<p>公共施設の老朽化 (法定耐用年数の超過)</p>	<p>将来を見据えた 公共施設の集約・再編</p>

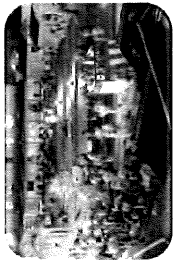
常磐地区市街地再生整備基本方針 基本方針図

市街地再生の目標

駅周辺の再編と交流空間の創出による市街地の再生
 ～「温泉」と「フラ」を活かしたにぎわい・交流の源泉づくり～

【方針4】 温泉街の滞留拠点の形成

- 温泉神社周辺への滞留拠点の形成



【参考イメージ】

【方針5】 歩きたくなくなる沿道景観・道路空間の整備

- 駅から温泉街までの道路景観の整備
- 情緒ある夜間景観づくり
- 安全な歩行者空間づくり
- まち歩き促進



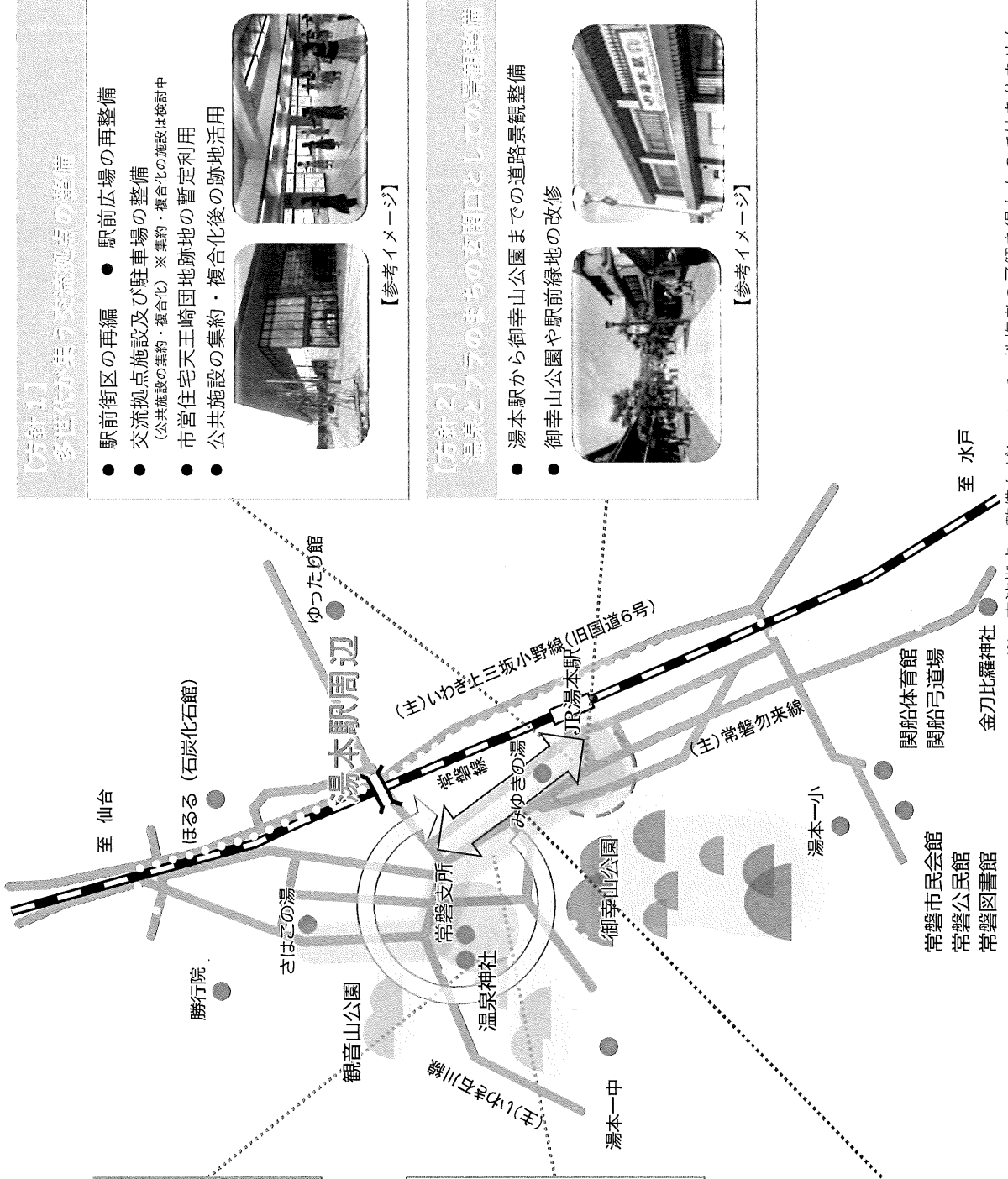
【参考イメージ】

【方針3】 商店街のにぎわい再生

- 空き店舗を活用した新規出店サポート
- 路上や空き地等を利用したにぎわいづくり

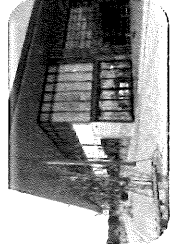


【参考イメージ】



【方針1】 多世代が暮らす交流拠点の整備

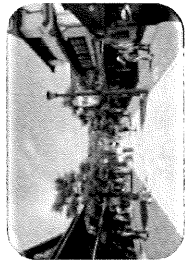
- 駅前街区の再編
- 駅前広場の再整備
- 交流拠点施設及び駐車場の整備
(公共施設の集約・複合化) ※集約・複合化の施設は検討中
- 市営住宅天王崎団地跡地の暫定利用
- 公共施設の集約・複合化後の跡地活用



【参考イメージ】

【方針2】 温泉とフラのまちの玄関口としての景観整備

- 湯本駅から御幸山公園までの道路景観整備
- 御幸山公園や駅前緑地の改修



【参考イメージ】

※ 交流拠点の整備などについて、地権者の了解を得たものではありません。